

方程式

過不足の問題(等置法)

▶平成20年11月9日(日)

第3回目

今は昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて、竹をとりつゝ、萬の事につかひけり。名をば讃岐造磨となんいひける。その竹の中に、本光る竹ひとすぎありけり。

先生：「突然ですが...

”南瓜”と書いて、何と読むのでしょうか？」

生徒A：「”みなみうり”

と言うと思ったのでしょ、せんせ？

おっと、その手は桑名の焼蛤。

”か・ぼ・ちゃ”と読むの！」

生徒B：「桑名の焼蛤って、何？」

生徒A：「...

何でしょうネ？」

先生：「その手はくわない、の語呂合わせです。」

生徒B：「でも、焼蛤って？」

先生：「桑名の名産だから、たんなる調子合わせ！」

生徒A：「そういう意味だったの！」

先生：「意味もわからずに使っていたの？」

生徒A：「...」(---;) *Syunn!*

先生：「”西瓜”は、読めない人は、い・な・い・ネ？」

生徒達：「は~い。」

生徒C：「...！」(---;)

ボク、読めない!

”にしうり”？」

ほっておきましょう。

先生：「では、これはどうですか！

南があつて、西があれば、北もある！

”北瓜”は何と読むのでしょうか？」

生徒達： *Shi ~ nn!*

生徒C：「これならわかる！

”めろん”デス！」

先生：「...

え？、...え？

どして？」

生徒C：「北の瓜だから，
夕張メロン！」

先生：「ばっか！」

じゃんじゃん！

そこの人っ！

感心しないで！

うそですよ。

言葉遊びです。

信じちゃいけません。

「メロン」は「甜瓜」と書きます

先生：「 ” 冬瓜 ”

これ読める人は，超すごい！」

初めて見た人はぜったいに読めません。

生徒K：「冬の瓜...か！

” とうり ” ，

重箱読み！

ぜったい，ちがうわナ。」

先生：「読める人などいないでしょ？

教えます。

” とうがん ” と読みます。」

生徒A：「ほ～っ！

冬瓜があれば，

夏瓜，秋瓜，春瓜があってもいいわナ！

かがん，しゅうがん，しゅんがん！」

先生：「そんなもん，ない！」

生徒A：「...」 (-_-;) *Syunn!*

あってもいいのに，ないものでした。

ジャンジャン！

それにつけても...

西瓜はどうして「せいがん」でなく，「スイカ」なのでしょうネ。

キュウリも瓜の仲間なのだそうで...

あ，スイカもメロンも瓜の仲間です。

もちろんかぼちゃも瓜の仲間。

スイカとメロンのつながりはなんとなくわかりますが...

かぼちゃとメロンはどうもつながりません。

きょうは，瓜の枕でした。

かぐや姫はどうなったのでしょうか？

さきほどまで、ず～とスタンバイしてたんですがね…。

瓜子姫の話ばかりなもんだから…

嫉妬して月へ帰ってしまいました。

え？

瓜子姫，知らない？

天邪鬼にだまされて誘拐された深窓の令嬢ですが…。

ウィキペディアが教えてくれます。

「瓜子姫」と聞いて下さい。

かぐや姫には，次回までには戻って来ていただきましょうネ。(*^_^*)

前回の宿題をかたづけなくっちゃ…。 **kuccha! kuccha!**

問題です。

1箱に入っているみかんを何人かに分けるのに，1人に5個ずつ分けると3個余り，6個ずつ分けると，**1人だけは3個しかもらえず**，2人は1個ももらえませんでした。

(2) 1箱に入っているみかんの総数を 個として方程式を立てて答えなさい。

[答 案]

*前半部

1人に5個ずつ分けると3個余ります。

みかんの総数 個から3個を除いておけば，1人に5個ずつ分けるきちんと分けることができます。

よって，生徒の人数は $(\quad - 3)$ 個 \div 5 個 / 人 …

*後半部

同様に，1人に6個ずつ分けると3個余ることになります。

みかんの総数 個から3個を除いておけば，1人に6個ずつ分けるきちんと分けることができますが，6個もらえない生徒が1人+2人でます。

(1人は3個，あとの2人は0個)

よって，生徒の人数は $(\quad - 3)$ 個 \div 6 個 / 人 + 1 人 + 2 人 …

*方程式

= より，(生徒数に関して)

$$\frac{-3}{5} = \frac{-3}{6} + 1 + 2$$

これを解いて， $\quad = 93$ (個) 答 みかんの総数は93個

確かめます。

93個を1人に5個ずつ分けます。

$93 \div 5 = 18$ あまり 3 ，18人に分けれて3個余ります。

93個を1人に6個ずつ分けます。

$93 \div 6 = 15$ あまり 3 , 15人に分けて3個余ります。
1人が3個もらいます。
2人は1個ももらえません。
生徒数は18人です。

以上

じゃんじゃん!

このように文章を入れてあげると、どんな生徒にもよく分かります。
式だけ書いてある参考書は、なんの「参考」にもなりません。
授業では、先生が説明として口述している部分です。
もちろん、生徒は”聞いていない”という前提で指導しなければなりません。
先生が1回説明したくらいでは、とても理解出来るような内容ではありません。
生徒には、問題の難易度による説明の重みを考えてあげる必要があります。
長い文章ですから、読解力も必要です。
国語と数学はともに論理を扱う教科として、
生徒には、緊密に連携させて学習させる必要があります。

きょうは、シリアスに決めました。
シリアスだから、落ちません。
こういう場合、どのように締めましょ? (^_^;)
終わりがダレると、次回への勢いがつきません。
...が、こういう日もあっていいでしょう。
では、きょうはここまで。

じゃんじゃん!

むりやり締めてしまいました! (^_^;)!
しかし、教材は「締まって」ますよ! (「しまる」ちがいです...(*^_^*)\)
超詳細説明が入っており、読めばだれでも思わずわかってしまいます...
これでもわからない人は...
う~ん! 神様に **でも** 祈ってみますか...!

神の声: 「ちょっとお! 神にむかって、” **でも** ” はないでしょ、” **でも** ” は! 」

... , ほっておきましょう。
授業で使ってみてください、せんせ。
受けることまちがいなし、です、と思いますが...

◀ **【 まちがいをさせない教材 】** ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

方程式 20	1 解き方の基本(その5) 過不足の問題(等値法)	クリック
-----------	-------------------------------------	------